3.11 東日本大震災　学校の対応に関する教訓・課題チェックシート

2014年4月

このチェックシートは宮城県内の教職員3,815名からのアンケートに基づき、3.11大地震時の犠牲と困難の中から引き出された教訓と課題をまとめたものです。各校の防災対策のために、□にチェックしてみましょう。

記号の説明…… ★ 重要項目　□ 確認・チェックすべき事項　※ 検討事項

宮城県教職員組合・震災問題検討委員会

4次避難

さらに高台
- □ 保護者との合意
- □ 引き渡し

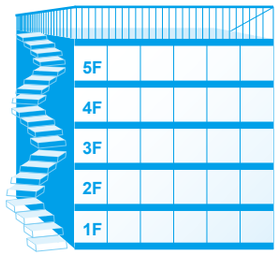
3次避難

高台
- □複数ルート
- □児童生徒の訓練
- □保護者との合意
- □引き渡し

地域

地域での避難

★一人ひとりの判断力
- □ 高台
- □ 避難ビル
  （5階以上、10分で）
- □ 集合場所
- □ 地域理解・つながり
- □ 校外学習や対外試合のとき



地域での避難場所の確認を！

住民の入れる外階段

学校～普段からの備えの基本

- ★ 普段からの地域とのつながり
- ★ 地域理解　立地　環境　歴史
- ★ 職場の同僚性　チームワーク

- □ 正確な情報入手 複数の手段
- □ 安否確認方法
  避難所　家庭訪問　ガソリンの優先確保
- □ 校舎の安全確認
- □ 連絡伝達手段
- ※ 災害時優先電話
- □ 原発事故への対応
- ※ 放射線測定器
- ※ N95 マスク
- □ 犠牲となった子どもへの対応

★ 3階でも危険
- □ 屋上の予備の鍵は最近の教室
- ※ 3階で水没
  戸倉小・雄勝中・相川小
- ※ 津波火災の危険
  門脇小・気仙沼南小

校舎

- □ 耐震化　□ 備品の固定　□ 落下物
- ※ 校地の液状化　※ 放射能汚染

20mの高台にある戸倉中にも津波
生徒1名・教職員1名が犠牲

2次避難場所

校庭
- □ 津波緊急時　直接、高台に
- □ 持ち物、服装の指示
- □ 特別支援学級への支援
- □ 持ち出し袋
  - □ 名簿2部　□ 筆記用具
  - □ 用紙　□ 家庭調査書のコピー

1次避難

- □ 停電で放送が使えない場合の対応
- □ 授業中
- □ 休み時間　放課後
- □ 特別教室　体育館
- □ 校外学習

学校再開のために

★ 早期の仮設校舎建設
- □ 校舎・教室の安全確保
- □ 通学路の安全確保
- □ 通学手段・スクールバス
- □ 給食の再開
- □ 学習用品の確保
- □ 支援・支援物資への対応
- □ 子どもの丸ごとケア・保護
- □ 遊び場・運動場の確保
- □ 被災教職員への支援

川の堤防を越える場合もある
大川小の犠牲児童73名
教職員10名

備蓄室

★ 地域に合わせて
★ 沿岸部　最上階に（分散配備も）
- □ ラジオ　□ 電池
- □ 水　□ 食料　□ 照明　□ 毛布　□ 電気不使用の暖房
- □ 石油　□ 簡易トイレ
- □ トイレットペーパー　□ ゴミ袋、ラップなど生活用品
- ※ 定期的に点検・入れ替え
- □ 発電機　□ ガソリン　□ エンジンオイル
- ※ 一度、使用してみること

引き渡し

- □ 保護者との合意
  - □ 下校中　学校管理下
  - □ 行き先の確認
  - □ 移動手段の確認
- □ 引き渡さない場合も
- □ 迎えに来ない子ども
- ※ 避難者対応と同時に

※引き渡し後に津波の犠牲者小・中で74名

下校中も学校管理下！
（下校中の犠牲児童生徒60名）

河川　さか上る津波！

★海の見えない場所での被害

宮城県小中学校
1日最大避難者数
- ◆3,000人以上　3校
- ◆2,000人以上　13校
- ◆1,000人以上　53校

全体で356校　19万人
※仙台市消防局・各地教委調べ

緊急避難所としての学校

★ 教職員→自治体職員→自治会
★ 教職員は子どもの保護に
★ 行政の責任で運営体制
- □ 開設・運営マニュアル
- □ 行政・自治会との協議
- □ トイレ問題の重要性
  ペーパー　水　ルールの徹底
- □ 食料配給ルール
- □ 病人　□ 外国人
- □ けが人　□ 乳児　□ 障害者（障害者用トイレ）
- □ 女性への配慮（セクハラ・暴力）
- □ 遺体安置所（職員対応の問題）
- □ 警備・巡回（盗難　破壊）
  アルコール　たばこなど
- □ 衛生面　□ペット問題
- ※教職員の勤務の明確化
  家庭への配慮
- ※教育施設としての学校
  避難所として適切か

家庭での避難

- □ 避難の取り決め
- □「津波てんでんこ」
- □ 家に戻らない
- □ 安否確認

帰宅後等、自宅または地域での児童生徒の犠牲者127名

家庭

※家庭に帰れば学校管理下外

海

※津波のスピード
沖　合……時速 800km〈ジェット機並〉
沿岸部……時速　30km〈オリンピック100m選手〉
※津波の高さ50cmで多くの人が転倒、1mで死亡。

個人としての教職員

子どもと地域住民への対応の中で
- □ 家族・親族の安否確認
- □ 我が子の園・学校への迎え
- □ 自宅被害への対応
- □ 遠距離通勤　交通手段
- □ 自分の体調、心のケア
- ※「ヘルプ！」を言うこと

事務室の備え

- □ データのバックアップ
- □ 通常の業務の困難　金融機関
- □ 通常の異動業務　事務所への書類
- □ 被災した児童生徒の諸手続
- □ 校舎・備品・物品の管理
- □ 教職員の時間外勤務の管理
- ※給与・年度末業務と震災対応
- ※被災校から被災校への異動の困難

保健室の備え

- □ 保健室の鍵
- □ 棚・備品の固定　□ 市販薬の常備
- □ ゴミ袋　ラップ　マスクなど
- □ きれいな水
- □ 乳児　□ パニック　□ 病気患者
- □ 感染症への対応　□ 消毒液
- □（インフルエンザ　感染性胃腸炎）
- ※どの程度まで開放すべきか

給食室の備え

★自校方式　地域のセンターになる！
- □ 食材・調味料の備蓄
- □ 戸棚・器材の固定
- □ 食材の確保
- □ 食材の安全性　放射能
- □ ラップ　ゴミ袋　手袋　消毒液
- □ 電気・水道　ガスの停止への対応

※児童生徒等の犠牲者数は宮城県内。